

## 「体育・スポーツをすること」や 「汗を流すこと」が好きな子どもの育成

### 大分県中津市立大幡小学校

全校児童数	680名(男子354名 女子326名)		
全クラス数	24	教職員数	51名
体育専科教員訪問学校数			4校
訪問校	中津市立三保小学校、中津市立鶴居小学校 中津市立今津小学校、中津市立南部小学校		
体育専科教員名		藤原 昭治	

#### Plan：取組時の課題と計画

##### 1 取組時の課題

- ・運動やスポーツをすることが好きな児童の肯定的評価の割合が高学年に改善傾向はみられるものの昨年度末 88%（昨年度初め 85%）とまだまだ低い。
- ・本校の課題は長座体前屈やボール投げが低い学年が見られることである。全国平均と比較して達成率は約 29%である。
- ・全校児童数 680 人に対して、運動場は狭く、休み時間に外で遊べる広さは十分ではない。同様に、体育館も狭い。道具も一人ひとりに行き届かないことが多いため、十分な運動量を確保するため昨年度の学年合同体育（90～120 名）メインから学級体育や 2 クラス体育に移行中である。若い教師たちを育てながらも学級体育を軌道に乗せる必要がある。

##### 2 取組の計画

- ① 学年合同体育（90～120 名）から学級体育への移行により、アクティブな学び時間や 20 分以上の運動学習量の確保
- ② スクールヘルスアップ事業との連携
- ③ 年間を通してラジオ体操やなわとびチャレンジ（様々な跳び方や連続跳びなど）、パワーアップトレーニング（アジリティや柔軟ストレッチなど）を中核とした体力向上。
- ④ マット、跳び箱、持久走、なわとびと 4 回の特設期間の設定
- ⑤ 体力アップ・カルテ（カルテを診れば、児童個人の体力や生活習慣が一目でわかる。6 年間継続できる。）により子どもたち一人一人が自分自身の体力を全国や県、昨年度の自分と対比させ自分に足りない力を考えさせる等の思考を深めさせる。
- ⑥ 校内環境整備（用具の補充・修理、練習用具の設置）
- ⑦ 振り返りの時間（友だちをほめる、新しい発見、できるようになったこと）を確保
- ⑧ 本校の実践体育授業を他校で授業実施

#### Do：実践内容

- ① 運動場や体育館の各クラス使用時間割の実働や場の工夫（場を増やし運動学習量の確保）を行った。
- ② 学級担任や栄養教諭、養護教諭、体育専科教員が連携して食生活の改善、生活習慣の改善、運動やスポーツ、汗を流す習慣の確立を目指して「チーム大幡」で保健授業や体育授業における栄養教諭の食育を視点とした温かい声かけなどの実施（スクールヘルスアップ事業との連携）
- ③ 年間を通してラジオ体操やなわとびチャレンジやパワーアップトレーニングに取り組み課題克服や体力アップ・運動習慣づ

くりを行った。

- ④ マット、跳び箱、持久走、なわとびと 4 回の特設期間を設定し、全校で共通理解して取り組み指導時間・運動時間を確保できた。
- ⑤ 体力アップ・カルテ（カルテを診れば、カルテ当事者の体力や生活習慣が一目でわかる。6 年間継続できる）により子どもたち一人ひとりが自分自身の体力を全国や県、昨年度の自分と対比させた。
- ⑥ サッカーボール 100 個やティーボール 80 個、体育館用ボール整理棚など校内環境整備を実施。
- ⑦ 振り返りの時間（友だちをほめる、新しい発見、できるようになったこと）を確保。
- ⑧ 本校の実践体育授業を他校で授業実施。

#### ●工夫したこと（&苦労した点）

- ① Plan の際に系統性を大事にしたゴール地点の共有を軸に、毎朝始業前に各クラスに足を運び学級担任と打ち合わせすることにより学級体育の一体感を実感した。
- ② 持ち運びに便利な大判スケッチブックなどを利用してできるポイントやできないポイントを対比意識させ、まず自分自身でチャレンジ（自分学び）や友だちにサポートしてもらいながら更なるアクティブな学びへ（友だち学び）、学びをより深いものにするために披露の場やできるポイントを全体共有する場などを設定（みんな学び）する時間も確保した。

#### Check：取組の成果

- ① 体育におけるアクティブラーニングの実働。
- ② 運動やスポーツをすることが好きな児童の肯定的評価の割合が 91%（12 月実施）と徐々に上昇。

#### Action：今後の課題

- ① 体育専科教員として Plan の際に系統性を大事にしたゴール地点の共有の継続。
- ② スクールヘルスアップ事業との連携終了後にどこまで子どもたち一人一人に食生活の改善や生活習慣の改善、運動習慣の確立の達成感を感じさせられるかが課題である。

#### ◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ・学校全体の滋養強壮や活力にも好影響を及ぼしているように思う。
- ・若手教員が専科の授業をモデルとして実践→教職員の資質向上、育成につながる。

○実践内容



学級体育への移行：場と時間の確保

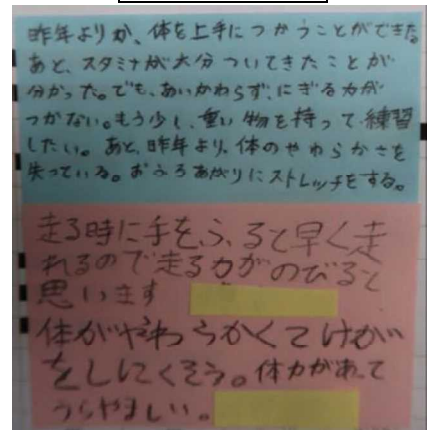
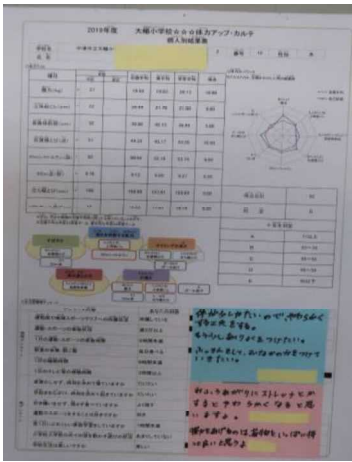
スクールヘルスアップ事業との連携

なわとびチャレンジの掲示版

●運動学習量と対話時間の確保

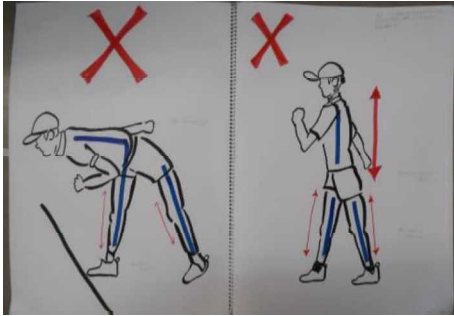
●体育授業における栄養教諭とのラジオ体操

●成長の旬に骨への刺激



体力アップ・カルテの取り組み

●自分を正確に知る⇒昨年度の自分と対比させて、更に思考を深めさせる。



かけっこ、短距離走：持ち運びに便利な大判スケッチブックを利用

●できるポイント&できないポイントの対比



●友だちをほめる  
振り返りの時間

●ワークシートを使って友だち学び  
自分学び・友だち学び・みんな学び (アクティブラーニング)

●バディと友だち学び